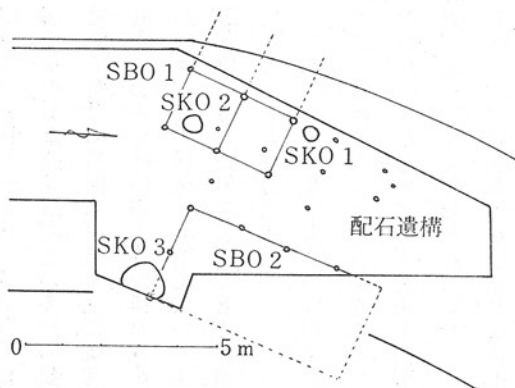


# 石川・御館遺跡

- 1 所在地 石川県鳳至郡穴水町字川島小字御館
- 2 調査期間 一九七八年(昭53)七月～八月
- 3 発掘機関 穴水町教育委員会・穴水町埋蔵文化財調査委員会
- 4 調査担当者 四柳嘉章・辻本 馨
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 縄文中期・奈良・平安、鎌倉・室町時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

御館遺跡は、能登半島の屈折点にあたる穴水盆地のやや奥部に位置し、盆地を貫流する小又川がU字状に蛇行した、その内部の微高地に立地している。標高約二・六m。室町期後半における長氏の居館と伝えられている。

御館の西方区において、穴水都市計画西川島地区区画整理事業に係る道路敷(六×三七m)の調査を実施し、一四～一六世紀に属する掘立柱建物二棟、土壇三基、配石遺構二基を検出した。しかし「御館」名にふさわしい遺構は未検出である。遺物は明代徳化窯の白磁や染付がやや多く出土し、この他に瀬戸、美濃、珠洲、土師質土器、中国銭、鉄製ヤス、ハサミ、煙管、砥石等がある。木簡は特別な遺構には伴っていないが、上層面で検出されたので一五世紀代のも



御館遺跡遺構配置図



御館遺跡の立地

のと思われる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 大般若経転読 ×

(135) × (40) × 3 019

(2) × ちめ □

(330) × (35) × 10 081

9 関係文献

四柳嘉章・辻本 馨

『西川島・I』穴水町

教育委員会

一九八〇年

四柳嘉章「能登・穴水

盆地における中世遺跡

群の調査」『信濃』第

三三巻第四号)

一九八一年

(四柳嘉章)